

新年のご挨拶

新たな年を迎え、今年1年が皆様方にとりまして、息災で実り多き年でありませうと祈念いたします。

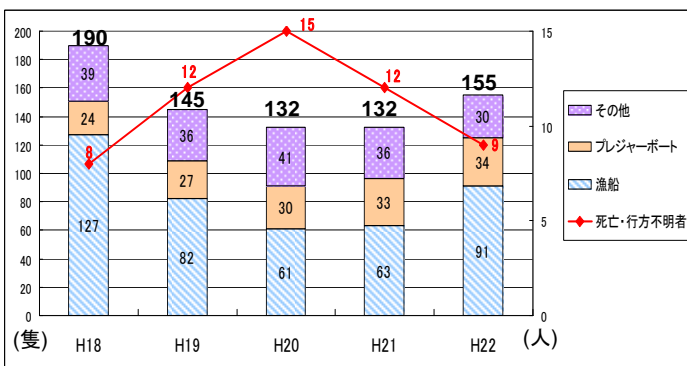
昨年は、特にサンマ漁に伴う漁船海難が多発し、全体としても過去5年では平成18年に次ぐ非常に厳しい年となりました。尊い人命・財産等を守るため日々海難防止活動を展開しているところですが、究極の目標である「海難“0”」を目指して更に邁進していきたいと思っております。

この「海上安全だより」は、現在278箇所の皆様方からご支援頂き、特に「現場からの生の声」として海難防止活動への取り組みを紹介するなど今後も役に立つ広報紙として充実強化を図ってまいります。皆様方には安全点検・確認等の確実な励行を基本として、自らの命を守り、船舶海難等の減少に向けご尽力をお願いいたします。

第一管区海上保安本部
交通部長 小出憲博

平成22年 北海道周辺海域における海難発生状況（速報値）

～減少傾向から一転し、23隻（17%）増の155隻～



過去5年海難発生状況

◆船種別 海難の概要

- 漁船による海難は91隻と前年に比べ28隻(44%)増加
特にサンマ漁船による海難が前年1隻から17隻に増
- プレジャーボートの海難は34隻(前年比1隻増)と恒常的に多く、特に石狩・後志管内での発生が21隻(62%)を占める

◆海難種類別

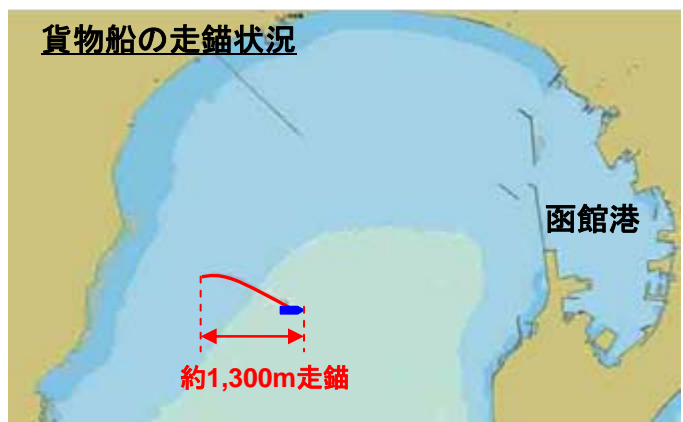
- 切迫する衝突海難が47隻と前年に比べ12隻(34%)増加し、そのうち漁船同士の衝突が22隻の47%を占める
見張り不十分によるものが6割強(31隻)

◎海難に伴う死亡・行方不明者9名(前年比3名減)

(AIS)函館港外で発生した走錨船乗揚回避事例について

平成22年12月3日12時頃、函館港外に錨泊中の貨物船(8,568トン)が走錨しているのを確認、直ちにAISメッセージとVHFで、同船に注意喚起を実施したところ自船の走錨に気付いて転錨したため、走錨による座礁などの海難を防止することができました。

なお、同船は転錨までの間、陸岸方向に約1,300m走錨していました。



<参考> 走錨注意に関するAISメッセージ例

<HOKKAIDO>THE ADVISORY FOR PREVENTING DRAGGING ANCHOR HAS BEEN ISSUED AT 12TH 0330JST FROM CAPTAIN OF OTARU PORT. TAKE CARE OF YOUR ANCHOR
小樽港長から日本時12日3時30分、走錨注意報が発出されました。注意して下さい！

<HOKKAIDO>YOU SEEM TO BE DRAGGING ANCHOR ON MY AIS SCREEN. CHECK YOUR ANCHOR AND PREVENT TO COLLIDE WITH OTHER VESSELS
貴船は、当方のAIS画面上では走錨しているようです。錨をチェックし、他船との衝突を避けて下さい。

海上荒天となる冬季間は、錨泊時に走錨の危険性が高くなります。

走錨防止対策として、

- ①最新の気象・海象情報の入手
- ②適切な錨地の選定、十分な長さの錨鎖の使用
- ③走錨監視(フッチ)の徹底、機関の準備及びAIS装置の常時電源ON並びにVHF(CH16)の常時聴取をお願いいたします。

AIS搭載船舶へのお願い

- (1) AIS装置の電源は常時ONにし、操作方法を確認しておきましょう。
- (2) 自船の位置情報が正しく入力されているか定期的に確認しましょう。
- (3) 船舶データ、船舶の動静(航行中、錨泊中等)、目的地およびETA(到着予定時刻)の航海関連情報を正確に入力しましょう。
- (4) AISメッセージの受信時に、受信音が聞こえるようにしましょう。
- (5) 連絡手段確保のためVHF(CH16)を常時聴取しましょう。

ご要望、ご意見は第一管区海上保安本部交通部まで
TEL 0134-27-0118
(内線: 2615、2623)

次号へ続く～